

光摂殿

2000年に増上寺の境内に新しく建てられたこの講堂は、特に3階の大広間に収蔵されている美術品でよく知られています。108畳の広大な空間は、僧侶として認められるための修行の最終段階で使われます。光摂殿は特別な機会に一般公開されており、訪れた人は天井を覆う色とりどりの天井画を見ることができます。

増上寺の美術品のほとんどは火災や空襲で失われました。1997年、増上寺は日本画の画家たちに講堂の天井絵の制作を依頼しはじめました。「四季の花」をテーマに日本を代表する画家120名が作品を寄せた天井絵は、現在と未来における増上寺の新しい宝物となりました。

また、襖には金地に四季折々の花々が咲き誇るパノラマの風景画が描かれています。その裏側には、木製の扉に木目を活かして描かれた山岳の水墨画があります。

多種多様な花々の風景がこの空間の見どころです。花が好きなら、ムラサキツユクサ、ボタン、アサガオ、ブッソウゲ、キク、そしてもちろんサクラなどの日本の花を見つけて楽しめます。